

旧神戸外国人居留地遺跡

開港と外国人居留地

1858（安政5）年、諸外国との通商条約によって、神奈川・長崎・箱（函）館・新潟・兵庫の開港が決定されました。兵庫は他の港より遅れて1868年（慶応3年12月7日）に開港しました。兵庫は、港町であるとともに、西国街道の宿場町でもありました。当時人口一万人を越す大都市でしたので、開港による外国人との摩擦を恐れ、実際は「兵庫」ではなく、東隣の一寒村であった「神戸」の開港でした。

神戸開港とともに進められたのは、外国人居留地の設置でした。東は旧生田川（現在のフラワーロード）、西は鯉川筋、北は西国街道付近（現在の花時計北側道路）の間に126区画を造成し、1868年から4回に分けて競売されました。多くの外国人が居住し、その後およそ30年間、彼ら自身による自治が行われました。居住の場であり、貿易をはじめとする生業の場であるとともに、文化的活動の場でもありました。これら外国人の様々な活動は、当時の日本人に大きな影響を与え、今日の神戸文化の礎を作ったといえるでしょう。東遊園地や名勝神戸外国人墓地は、神戸市民と外国人の共生の歴史を物語る重要な歴史遺産として知られています。

経 過

今回の発掘調査地点は、地籍図によると旧神戸外国人居留地97番地と98-2番地に当たります。市役所の建替え工事に伴う解体工事中に、煉瓦建物の基礎の一部が発見され、12月から発掘調査を行っています。

旧神戸外国人居留地ではこれまで、明治時代に築造された下水道の一部等が発見されていましたが、居留地時代の建造物を発掘調査するのは初めてのことです。調査面積は約250m²で、この調査範囲以外は、後世の建物の基礎ですでに破壊されていまし

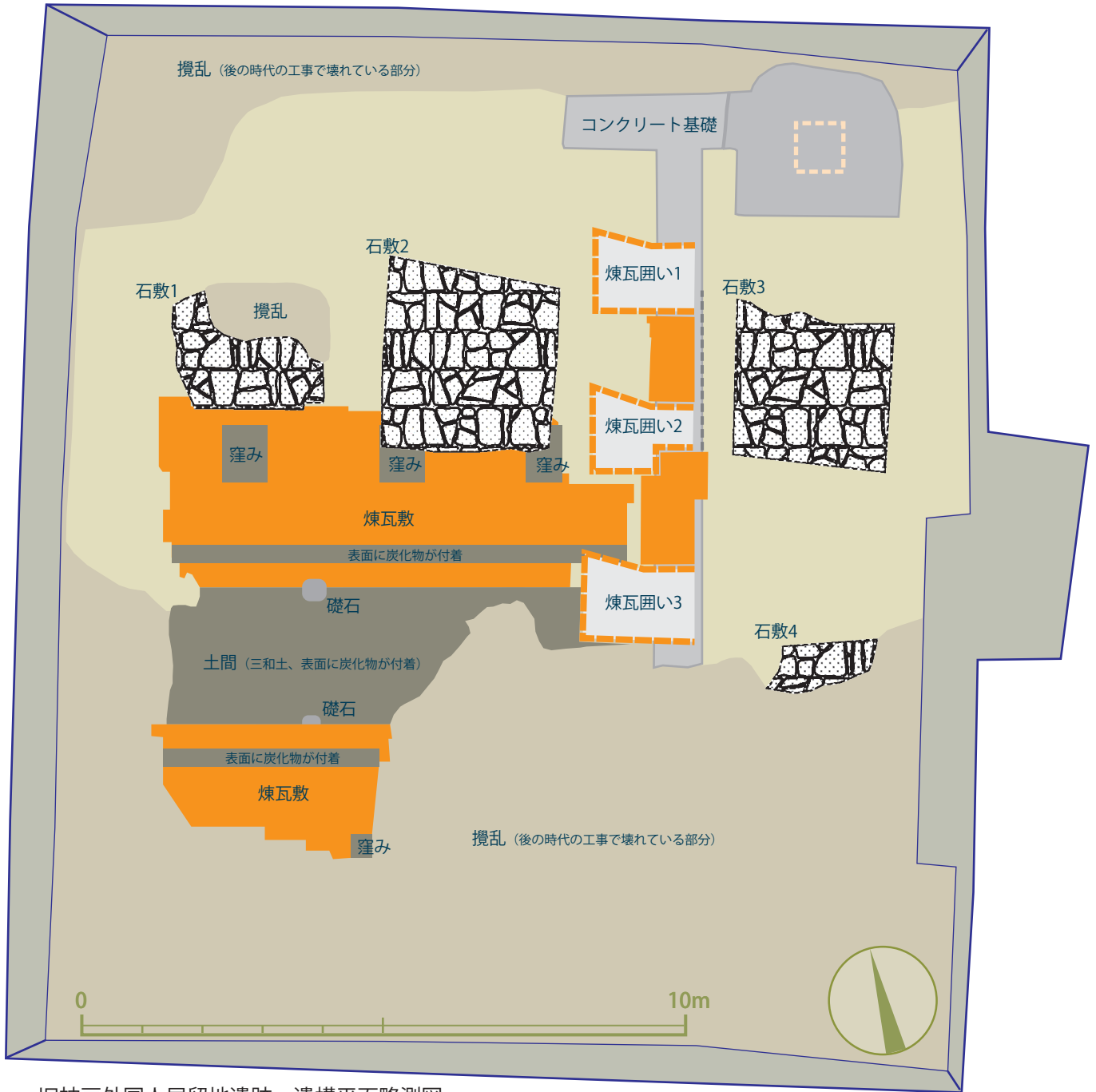
たので、古い基礎などは残っていませんでした。

居留地97番地と98番地

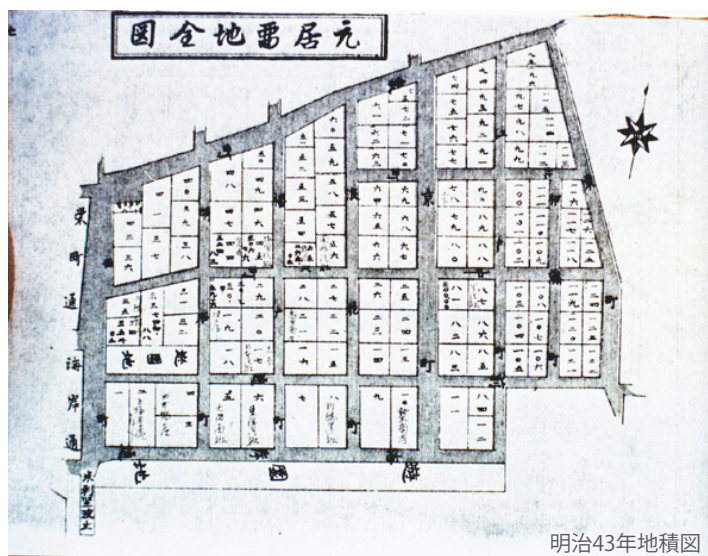
記録によると、明治時代の後半にはヘリヤ(HELLYER)商会の倉庫が建っていたようです。この会社はアメリカ系の会社で、日本茶を輸出していました。開港当時は日本茶と生糸が代表的な輸出品目で、お茶は神戸と横浜から主に輸出されていました。土地や建物の登記簿をたどると、大正10年に工務店の倉庫2棟が登記されています。しかし、その翌年にはその建物は解体されています。昭和15年にはその一部の土地に運輸会社の倉庫が建てられ、さらに昭和27年には工務店、商社の建物が建てられました。そして、いずれも昭和46年までには神戸市の所有になりました。



居留地計画図 J.W.ハート 1870（明治3）年
（神戸市立中央図書館蔵）



旧神戸外国人居留地遺跡 遺構平面略測図



明治43年地積図



Ⅰ～Ⅲ期の遺構（北から）



Ⅰ・Ⅱ期の遺構（東から）

出土した煉瓦の刻印

関西煉瓦株式会社（製造 明治二十一年）



推定堺煉瓦株式会社（製造 明治二十八年）



推定貝塚煉瓦株式会社（製造 明治二十七年）



調査の概要

今回の調査では、記録に残されているそれぞれの建物の一部が見つまっていると考えられます。しかし、今も発掘調査中であるため、それぞれの遺構の時期は、確定するには至っていません。

Ⅰ期 煉瓦敷き床面の時代

炭や灰で汚れた土間（三和土）を挟んで、床に煉瓦を敷き詰めています。その上面には、帯状に煤がついた部分や、方形の窪みが4か所残っています。改修が施されている部分もあります。使われている煉瓦には、堺の会社で作られたと推定される刻印が多く見られます。

Ⅱ期 コンクリート基礎と煉瓦の壁・柱

幅約85cm、厚さ約60cmのコンクリート基礎の上に煉瓦で壁が築かれています。煉瓦の積み方はイギリス積みで、60cm以上残っています。また、それには3カ所の煉瓦囲いが伴っていて、コンクリート床になっています。

Ⅲ期 石敷の時代

4箇所の石敷が築かれています。敷かれた石材は花崗岩で、何らかの石造品を割って再利用しているものもあります。石材の間には砂利が詰められています。建物基礎の一部であった可能性があります。

以上の3期に分けられますが、築造順は判明しても、同時期に存在していた可能性があり、詳細は今後の調査結果を検討し、それぞれの遺構の築造時期と廃絶時期を、記録とも照合しながら解明していかなければなりません。

遺構の時期

古い写真や記録を参考にすると、土間や帯状の炭・煤の堆積が、お茶の再製工場のかまどの痕跡であると推定できそうです。そうすると、Ⅰ期は明治時代のヘリヤ商会の輸出用茶の加工を行った作業場であった可能性が高いと考えられます。

写真などの記録によれば、輸出用の茶は、産地から荒茶として、横浜と神戸のお茶場

と呼ばれていた再製工場に運ばれ、品質を維持するために鉄釜などで火入れ乾燥の工程を経て梱包されています。

Ⅱ期とⅢ期は大正時代以降の可能性もありますが、未だ検討中です。



ヘリヤ商会のお茶の加工風景（明治時代中～後期）
神戸市文書館提供



荒茶を釜で乾燥させる（静岡県茶業史）大正15年



荒茶を籠で乾燥させる（静岡県茶業史）大正15年

旧神戸外国人居留地遺跡
現地説明会資料 20091225.26
神戸市教育委員会文化財課